山梨医大紀要　第8巻，63—71（1991）

『カンタベリ物語』本文の中でチョーサーが初めて使用したラテン語とフランス語の研究(3)

保谷一三

これはチョーサーが『カンタベリ物語』本文ではじめて借用したラテン語とフランス語の研究である。今回は(2)に続き，73.closure～108.daggedまでの36語を扱う。借用の年代は1386年（頃）と確定しており，これとフランス語における初出年とを比較し，借用の早さ，借用の文化的背景を論じる。その際大陸のフランス語と英国のフランス語とを区別し，なじみのフランス語からか海峡の彼方のフランス語からかによって借用の意味のちがいを明らかにする。

キーワード：チョーサー，ラテン語，フランス語，借用語

73. closure *n*[1] (OF[2]) I.[3] Pars.[4] 865-70.[5]

Certes, he that so dooth is cause of manye damages and vileinyes, … alle damages that bestes don in the field, that breketh the hegge or the *closure*;

（大意）確かな話，そのように（処女性を犯すことを）する男は多くの被害を与え、悪をなします。…それは畑で動物が与えるすべての被害と同じです，生垣や囲いをぶち壊して侵入するからです。

Greimas[6]によるとOF clore *v*からclosure, closture が1169年に初出している。《cloison, séparation, barrière》の意。現代仏語ではclôture。

Rothwell[7]によるとAF[8]にもclosure, cloy-があり，"enclosure"の意。例文としてItem, que nulle hurdys, ne palys, n' autre *cloysure* soit fait devaunt nulle tenement（同様にいかなる柵，垣根，その他の囲いも借地の前には立ててはならない）
Lib Alb 477.

74. coagulat *a* (L) G. CY. 811.

And combust materes and *coagulat*

（大意）それに焼いたものや凝固させたもの

Greimas, Rothwell共に記載がない。

Lewis[9]によるとcoagulo *v*, coagulum *n*は本来幼動物の胃の中の凝固乳について言う。OED[10]によると現代綴りではcoagulate, coagulated。ChaucerはLatinの過去分詞coagulatusから-usを切り落として使った可能性がある。

75. coillons *np* (F) C. Pard. 952.

(But by the croys which that seint Eleyne fond,)
I wolde I hadde thy *coillons* in myn hond
(In stede of relikes or of seintuarie;)

（大意）《罪を清めるため皆々自分にお布施をしろと威張る免罪符売りに向って宿屋の主人が反撃して》（しかし十字架を発見した聖ヘレナにかけて言うが）僕は君の（にせ物の）聖遺物や聖遺物箱を（お布施と引き換えに）もらうより，君のきんたまをもらってやる（それなら汚くても本物だから。）

GreimasによるとOFにcoillonがある。またRothwellによるとAF coillon, culum, quilunt で，例文としてSi femme veut engendrer … De coillons de ver face poudre（女性が妊娠を望むなら，雄豚のこうがんを粉末にし）*Medica* 22rb.がある。

76. colered *pp* (OF) A. Kn. 2152.

(And folwed him, with mosel faste y-bounde,)
Colered[11] (Skeat : colers), …

山梨県中巨摩郡玉穂町山梨医科大学英語
（受付：1991年8月31日）

（大意）（20匹以上の白い大型犬がパラモンを支援するトラキア王の戦車に従った。口輪を固くはめられ，金製の）首輪をつけていた。

Greimas によると coler《collier》は XII^{e}S. 初出。Rothwell によると AF coler "neck"。用例として horse-collar が記載されている。

77. collect *a* (L) F. Flk. 1275.

(His tables Toletanes forth he broght,
Ful wel corrected, ne ther lakked noght,)
Neither his *collect* ne his expans yeres

（大意）（アウレリウスは所持していたトレド天文表を出した。間違いは完全に直し，欠けるものはなかった。）20年，40年，60年毎の惑星位置表も，1年から20年までの毎年の位置表もあった。

Skeat[12]によると collect *pp* は collected in groups の意で、ここでは20年毎の，を表わす。毎年の，は expans (<spread apart)で表わす。

Greimas にはない。Rothwell によると，collect は "collected"の意。例文もある。[13]

78. columbyn *a* (AF) E. Mch. 2141.

(The winter is goon, with alle his reynes wete ;)
Com forth now, with thyn eyën *columbyn* !

（大意）《60才を過ぎた騎士が庭を散歩しようと思い，若い妻に向って，「起きなさい，お前，いとしい，美しいお前。きじばとが鳴いているよ，美しい声だよ。》（冬は終って，湿った雨はもう降らないのだよ。）さあ出ておいで。はとのようにやさしい目を見せておくれ。」

Skeat[14]によるとこの部分は Solomon's Song (or Song of Songs) ch. i. v. 15 を下敷きにしている。

Bridegroom : How beautiful you are, my dearest,/
O how beautiful, your eyes are like doves !

The Marchantes Tale では若妻は騎士が一時失明したのを機に居候の騎士見習いの若者と浮気をしてしまう。

Greimas によると OF で colon, colomb は X^{e}S.初出。Rothwell によると AF に columbine "of a dove" がある。

79. comendable *a* (OF) B. Mel. 3050-5.

And Tullius seith : "ther is nothing so *comendable* in a great lord as whan he is debonaire and meke, …"

（大意）それにテュリウスも言っています：「大君主が立派なのは寛大，温和に振舞う…時である。」

Skeat[15]によると，この部分はキケロに出典がある。'Nihil est *laudabilius*, nihil magno et praeclaro viro dignius, placabilitate atque clementia.' —Cicero, De officiis, i. 25. 88.

Greimas には comander しかなく，Rothwell に cumandable はあるが「…しがちである」の意。しかし commendacion, -ioun には"praise"の意がある。従って AF 文献をもっと調べれば comendable が出て来る可能性がありそうである。Lewis によると Latin に commendabilis"worthy of praise"がちゃんとある。

80. committe *v* (AF) B. Mel. 2495-500.

Now sir, than shul ye *committe* the keping of your persone to your trewe freendes that been approved and y-knowe ;

（大意）《奥さんのプルーデンスは言った》さあ，旦那様，そんなわけですから，あなたの身を本当のお友達に預けなさい，証明つきの，わかったお友達なのですから。

Greimas には cometre がある。Rothwell では committer "entrust, grant"がある。従って AF と考えられる。例文として avons committé pleyn poar as (au?保谷) maire（我々は全権を市長（町長）に委ねている）SAMPS^{2}(C) 169r.がある。Latin では committere である。

81. confiture *n* (OF) C. Pard. 862.

(In al this world ther nis no creature,)
That ete or dronke hath of this *confiture*
……
(That he ne shal his lyf anon forlete ;)

（大意）（この世の中でどんな生き物も）この調合薬を食べるか飲んでしまったか…するならば（必ずすぐに死んでしまいます。）

Greimas によれば動詞形 confire は divers sens techniques : confire, embaumer, etc.を持つ。名詞形 confiture は X III^{e}S.初出。

Rothwell によれば動詞形 confire は"make, prepare, concoct"の意で，名詞形は記載がない。

82. consecrat *a* (L) B. MK. 3207.

And was to god almighty *consecrat*

（大意）（サムソンは）全能の神に身を捧げていた。

Greimas, Rothwell に記載がない。Latin で consecratus であり，これから-us を取り去った形と考えられる。cf. 74., 77.

83. consentant *a* (F) C. Doc. 276.

(The remenant were anhanged, more or lesse,)
That were *consentant* of this cursednesse.

（大意）（残る犯人は絞り首となった。地位の高い低いの違いはなかった。）この呪われた犯罪を共謀したからである。

判事が一目惚れした騎士の娘を自分の盗まれた娘だと理由づけ，これを取り上げて妾にしようとした事件の結末を述べている。この事件は Jean de Meun の *Le Roman de la Rose* に出典があり，結末の部分は

et tuit cil condampné morurent
qui tesmoign de sa (MS. Z la) cause furent.
-MS. H 5627-8.

で，「有罪」「死刑」「共犯」と抽象的な言葉で述べている。これに対して Chaucer の方は「絞首刑」「呪わしい犯罪」などイメージや評価の言葉を出している。

Greimas によれば OF consentir は X^{e}S.初出。Rothwell によれば AF cunsentir,名詞に cunsentaunz *n. pl.* "those who agree"がある。記載はないが，cunsentaunt があってよいことになる。

84. consequent *a* (F) B. Mel. 2577.

(Lat us now examine the thridde point) that Tullius clepeth *"consequent."*

（大意）さて第三の点を検討しましょう。これをテュリウスは「続き」と呼んでいます。

Greimas によれば consequent は1308年初出。Rothwell にも consequent, -ens がある。

85. consideracioun *n* (AF) I. Pars. 735-40.

…Eke ther been mo speciale remedies agains Accidie, in diverse werkes, and in *consideracioun* of the peynes of helle, and of the Ioyes of hevene, and in trust of the grace of the holy goost, that wole yeve him might to perfourne his good entente.

（大意）同様になまけについてもっと多くの特別矯正法があります。いろいろな仕事をする，地獄の苦しみと天国の喜びを思う，精霊の恩愛を信じる，などです。これによって人は立派な意思を実行できます。

Greimas にはないが，Dauzat[16]によると considérer は1130年初出，considération は finXII^{e}S.初出。Rothwell によれば AF には consideracioun がある。*lexis* によると considérer は1150年初出。Dauzat とは出典が異なるようである。

86. conspiracye *n* (AF) B. Mk. 3889.

Ful prively hath maad *conspiracye*
(Ageins this Iulius, in subtil wyse,)

（大意）（ブルータスは）本当に密かに陰謀を企て（このジュリアス・シーザーを殺そうとした。方法は巧妙だった。）

Greimas にはないが，Dauzat, *lexis* では conspiration 1160年初出。

Rothwell には conspiracie がある。OED によれば Latin -atio の-acy による置換は全く英語に限られるそうである。しかし AF に-acie があるということはどう解釈すべきだろうか。-atia>-acy の例が多いとなると，誤って-acy を適用してしまったのが発端だろうか。研究を要する。

87. constablesse *n* (OF) B. ML. 539.

(This constable and dame Hermengild his wif
Were payans, ……
……
And Constance hath so longe soiourned there,

In orisons, with many a bitter tere,
Til Iesu hath converted thurgh his grace)
Dame Hermengild, *constablesse* of that place.

（大意）（このノサンバーランド王の城の城将とその妻ハーメンギルドはキリスト教徒ではなかった。…しかしローマ皇帝の娘コンスタンスを妻とする代りに自らもキリスト教に改宗したシリアのスルタンが怒った母によって殺され，妻コンスタンスも舵のない舟に乗せられて大海に流され，ジブラルタル海峡を経て英国北東部のノーサンバーランドの海岸に漂着した。コンスタンスが長く留るうちに，ひたすら祈り，止めどもなく涙するのを見て，）城将夫人ハーメンギルド（もキリストの愛に感動して，自らもキリスト教徒となった。しかしハーメンギルドはコンスタンスに恋慕して拒まれた若い騎士によって就寝中に殺され，ナイフは隣のベッドに寝ていたコンスタンスのわきに置かれた。…）

Greimas によると OF conestable（主馬頭（しゅめのかみ））1155年初出。conestablesse（その夫人）1250年初出である。

Rothwell によると constable, conestable はあるが，女性形の記載はない。意味は“chief officer of household”, “warden of castle”, “military commander”などがあり，ここでは“warden of castle”（城将）が適当である。

88. constant *a* (F) E. Cl. 1047.

And she ay sad and *constant* as a wall,

（大意）（貧しい家の娘ながら侯爵に見初められて結婚した）グリジルデは（夫の試しに対して）常に気持を変えず，その不変さは家の壁にも比べることができた。

産んだ娘を引き離され，大きくなって「妻に迎える」と夫に試された話である。

Greimas, Rothwell には記載がない。Greimas の場合，常識的なものは省く傾向がある。現代仏語から過去にさかのぼって解説する Dauzat では XIIIeS. 初出（constan），1355年には《ferme》の意，XVIIeS.《invariable》の意で使われた。ここではもちろん《ferme》の意である。

89. contagioun *n* (F) G. SN. 72.

(And of thy light my soule in prison lighte,)
That troubled is by the *contagioun*
(Of my body, …)

（大意）（聖母マリア様）（あなたの光によって獄舎につながれた私の魂は明かるくなります。魂は（肉体の）汚れによって苦しんでおりますが。

Greimas, Rothwell に記載がない。Dauzat によると contagion début XIVeS.である。OF に使われて間もなく Chaucer も使ったことになる。一方 *The Riverside Chaucer*[17]の Explanatory Notes によると“contagione corporis”の英訳で，この意味で英語史初出である。

90. contubernial *a* (L) I. Pars. 760-5

Thilke that thou clepest thy thralles been goddes peple ; for humble folk been Cristes freendes ; they been *contubernial* with the lord.

（大意）いわゆる奴隷は神に所属します。なぜなら卑しい人々はキリストの味方だからです。奴隷はキリストの友なのです。

Skeat[18]によると，“sharing the same tent with”の意から，familiar, at home with の意となった。

Greimas, Rothwell に記載がない。OED によると con- ＋ taberna（cf. tabernacle テント，幕屋）がその語源である。

91. contumax *a* (L) I. Pars. 400-5.

Contumax, is he that thurgh his indignacion is agayns everich auctoritee or power of hem that been hise sovereyns.

（大意）反抗する人は腹を立てて自分の支配者のあらゆる権力に楯つきます。

Greimas によると OF contumax XIIIeS. 初出である。また Rothwell によると AF に contumax, -az がある。例文も載せている。veoir par quele introduction peccheours sunt contumax …（罪人が世の中に反抗する唆因は何かを知る）*Mirror of Justices* 125.現代英語では contumacious という。

92. contumelie *n* (F) I. Pars. 555-60.

And thanne stant the sinne of *contumelie* or stryf and cheeste, and batereth and forgeth by vileynes reprevinges.

（大意）《悪魔の炉で三つの厄介者が作られます。ごう慢…嫉妬》次に争い好きの罪です。これは悪人の手を使ってもろもろの争いを作り出します。

Greimas, Rothwell に記載がない。しかし Latin には contumelia があるので，Chaucer が直接に仏語化（→英語化）した可能性もある。

93. convertible *a* (F) A. Co. 4395.

(His maister shal it in his shoppe abye,
Al have he no part of the minstralcye ;)
For thefte and riot, they ben *convertible*,

（大意）《店の金庫の金を使って遊ぶ店員の》（主人は店員の遊びに金は出しても自分自身は全然一緒に遊んでいない。さいころ，賭け事，女遊び――）これらは窃盗や放蕩と違わない。

Greimas には記載がないが，Dauzat によると1265年に Jean de Meun が使っている。

car tele verité possible
ne peut pas estre *convertible*
avec simple necessité[19]

（大意）なぜならそういう真かも知れない真理は純粋な必然性とは同一にできないからである。

Rothwell によれば convertible "convertible"。例文として mes ne sont *convertible* en les us（しかし習慣は法律に変えることはできない）*Mirror of Justices* 199.

94. corfew-tyme (AF) A. Mil. 3645

(The dede sleep, for wery bisinesse,
Fil on this carpenter right, as I gesse,)
About *corfew-tyme*, or litel more ;

（大意）（深い眠りが，疲れる仕事のためにこの大工をすっかりとらえてしまった，）時刻は午後8時ころ。それよりあまり遅くなかった。

Skeat[20]によると，corfew-tyme は8p.m.，時に9p.m. "ringing the curfew-bell, as a signal for putting out fires and lights"と説明している。

Greimas にはないが，Dauzat は couvre-feu（火を消す）XIIIeS.初出とし，*lexis* は1268初出としている。

Rothwell によると AF corfeu, -few ; coverfeu, etc. である。Chaucer の綴りは AF 由来と言える。

95. corniculere *n* (L) G. SN. 369.

(Oon Maximus, that was an officere)
Of the prefectes and his *corniculere*,
(Hem (＝thise martirs) hente ; …)

（大意）（マクシマスという男が長官付きの役人で，）秘書をしていた。（その男が彼等（＝これらの殉教者）を捕らえた。…）

Skeat[21]によると，corniculum はヘルメットにつける武勲章である。Lewis によると，cornicularius は corniculum を授かった兵士の意から出世兵士の意，転じて長官秘書の意になった。

Greimas, Rothwell, Dauzat, *lexis* には記載がない。

96. corosif *a* (F) G. CY. 853.

(Yet forgat I to maken rehersaille)
Of watres *corosif* and of limaille

（大意）（しかし忘れていた。）酸溶液と金属を細かく削ったものもあります。

Greimas にはない。Dauzat によると corrosif XIIIe S.は俗ラテン語 corrosivus に由来する。

Rothwell によると，AF に corrosif,coro-がある。例文もある。

qi par coverte felonie … doune a autre a manger ou autrement user chose corrosive ou entouché ou envenimé（ある者は酸や毒物を他人に食べるなどの方法で使わせ，密かに重罪を犯す）*mirror of Justices* 22.

97. corrumpable *a* (AF) A. Kn. 3010.

(For nature hath nat take his beginning
Of no partye ne cantel of a thing,
But of a thing that parfit is and stable,)
Descending so, til it be *corrumpable*.

（大意）（自然は事物の部分から始まっていず，完全な，安定した事物から始まっている。）そしてこのよう

に時間が経過すると，遂には崩壊する。

Skeat[22]によると，この抽象的な話はPalamonとArciteが共に見初めたEmelyeをいくさで対決して，勝者が妻とするという話の解説で，Chaucerは自ら英訳したBoethiusの *De Consolatione Philosophiae* の一節をここで利用した。

GreimasによるとOF corompable 1190年初出。RothwellによるとAF corrumpable "corruptible"がある。[23]

98. countour-hous *n* (AF) B. Sh. 1267.

(The thridde day, this marchant up aryseth,)
……
And up in-to his *countour-hous* goth he
(To rekene with him-self, as wel may be,
Of thilke year, how that it with him stood)

（大意）《ベルギーのブルージュへ仕入れに出掛けることを決めたフランスのパリ北部の町サン・ドニに住む商人はパリにいる同郷の親しい僧に出発まで家族と遊んでくれと話す。》（三日目にこの商人は起きると…）会計室に入って（一人で一所懸命一年間の収支を計算し，残金を確かめた。）

GreimasによるとOF conterは1080年初出。もとのラテン語はcomputare。conteor ≪ celui qui compte ≫は1155年初出。

RothwellによるとAF cunter "count", cuntur, -eor ; co(u)ntourがある。

99. counting-bord *n* (AF) B. Sh. 1273.

(His bokes and his bagges many oon)
He leith biforn him on his *counting-bord* ;

（大意）（帳簿と金袋が沢山あった。）それらを会計テーブルの上に並べた。

以下98.を参照。

100. countour-dore *n* (AF) B. Sh. 1439
(Ful riche was his tresor and his hord,)
For which ful faste his *countour-dore* he shette ;

（大意）（彼（＝商人）の財宝は沢山あった。）だから会計室の戸はぴっしりと閉めた。

以下98.を参照。

101. countretaille *n* (AF) E. Cl. 1190.

(Folweth Ekko, that holdeth no silence,)
But evere answereth at *countertaille* ;

（大意）（こだまを見習いなさい。こだまは決して沈黙していません。）いつでも応答します。

これはGrisildesが夫の試しに常に耐えてきたことを取り上げ，女達はこのことを誇らしく語り継いで行きなさい，と言っている。

Greimasにはcontre-とtaille（割符）は別々に記載されている。

RothwellにはAF contretaille "counter-tally"が記載されている。cuntre-, countre-も可能。例文が参考になる：s'il y eit plus mys (sc. sur la taille) qe estre ne dust, joignez vostre contretaille et la faucez（万一不当に多くの額がついて（すなわち，割符に刻まれて）いたならば，あなたの持っている片割れを合わせて，相手の割符がまちがっていることを証明しなさい）YBB Ed II vii 35.

OEDによるとat the contretailleは"in reply, in retort"の意の熟語である。

102. countrewayte *v* (AF) B. Mel. 2505-10.

Thanne shul ye evermore *countrewayte* embusshements and all espiaille.

（大意）それから待伏せやいろいろなスパイ団にもっともっと気をつけなければいけません。

若く金持ちの権力者Melibeusは警戒していながら留守中に妻を打たれ，娘を刺し殺されてしまった。復習を誓ったが，賢い妻Prudenceに諄諄と諭された話の一部である。

GreimasによればOF contregaitier《se défendre》である。OF g → AF wは特徴的である。

RothwellによればAF cuntregueiter, con- *v refl.* "guard oneself (against)である。一方gueiterの異綴を見ると，gaiter, geit- ; gaitere ; guaiter, gueit- ; waiter, weit-, (gauter) "watch over ; lie in wait for"とg-, gu-, w-の3種の語頭綴がある。例文：si se en porreit l'um cuntregueiter De ceo que il vuldrat

opposer（人は自分が反対しようとする人（々）によく気をつけることが出来たならば）*Vie de St. Clement* 1683.

103. courtman *n* (AF) E. Mch. 1492.

(For brother myn, of me tak this motif,)
I have now been a *court-man* al my lyf.

（大意）《Placebo, Iustinus の二人の兄弟があった。兄の Placebo が60才を過ぎて独身に終止符を打ち，20才にならない若い女を妻にしたいと考え弟に相談した。これに対して弟は言った》（「兄さん，この相談は僕に持ち出さないで下さい。）僕は生涯宮仕えをして来ましたが，（主君の知恵は常に僕の知恵よりまさっています。それを経験しています。兄さんは自分が気が済むように決めるべきです。それが最上だと僕は思います。」）

Greimas によると OF cort は1080年初出。《Domaine seigneurial et royal》の意。

Rothwell によると AF curt, court, courte で "court, royal residence" の意。

104. creat *pp* (L) I. Pars. 215-20.

And al-be-it that god hath *creat* alle thinges in right ordre, and no-thing with-outen ordre, but alle things been ordeyned and nombred ; yet natheless they that been dampned been no-thing in order, ne holden noon ordre.

（大意）たとえ神が万物を正しく秩序づけてお作りになり，万物は秩序を持ち，数も決まっているとしても，やはり神から呪いを受けたものは全く無秩序で，混乱を極めています。

Greimas によると OF creer, crier。*pp* は creet, creé ; criet, crié。

Rothwell によると AF crier, creer。*pp* は crié, creé。

Latin で creo の過去分詞は creatus。従って Chaucer はラテン語形から-us を切り取って使っている。

105. crone *n* (ONF) B. ML. 432.

(The sowdan and the cristem everichone
Ben al to-hewe and stiked at the bord,
But it were only dame Custance allone.)
This olde sowdanesse, cursed *crone*,

（大意）（息子のスルタンと花嫁クスタンスに随伴してきたキリスト教徒全員が食卓で二つに斬られ，また刺し殺されました。クスタンスだけは残されました。息子の母である）老いた女スルタン，呪われた魔女（はこんなひどいことをしでかしたのです。それというのも国を支配したかったからです。）

Greimas には記載がない。Dauzat によると，OF charogne, その forme normanno-picarde が carogne で，共に finXII^{e}S.（1170年）初出，俗ラテン語の caronia からという。現代仏語でも charogne は「死体，死肉；軽蔑的に，下賤な人—individu ignoble—」の意。

Rothwell によると，AF caroigne, charoine, etc. で "carrion, carcas, corpse" の意。現代英語で「しわくちゃばばあ」の意があるが，これは *New World English Dictionary* によると，Walter Scott によってこのような意味で使われはじめたためという。

106. crude *n* (L) G. CY. 772.

(And in amalgaming and calcening)
Of quik-silver, y-clept Mercurie *crude*?

（大意）（それに（いろいろな物質作りの中でも）粗銀といわれる水銀の合金作りや焼焼（かしょう）のことをおはなししましょうか？

Greimas によると OF cru。Dauzat によると cru XIII^{e}S. 初出。ラテン語は crūdus.

Rothwell によると AF cru（女性形 crute）で，"raw" "untilled" "hard (of beer)などの意味がある。

Chaucer が敢てラテン形に近づけたのは発音のし易さからかも知れない。

107. cucurbites *np* (AF) C. CY. 794.

Cucurbites, and alembykes eek

（大意）きゅうり（メロン，ひょうたん）型容器，また蒸溜器（…があります。いずれも高価です。）

Greimas にはない。Dauzat によるとラテン語

cucurbita「かぼちゃ，ひょうたん」から PF cucurbitacée が出来た。

Rothwell によると AF cucurbite "cucumber"がある。例文：Puis si pernez (<prendre 保谷) l' escorce des chasteinez e l' escorce cucurbites（次に栗ときゅうりの皮をむきなさい。）*The Chirurgia of Roger of Salerno* 289 v 15.

108. DAGGED *a* (AF)[24] I. Pars. 421.

And forther-over, if so be that they wolde yeven swich pounsoned and *dagged* clothing to the povrefolk, it is nat convenient to were for hir estaat, …

（大意）その上，上流階級の人々がそのように穴が開いたり，（袖に）ぎざぎざのついたりした服を貧しい庶民に施しても，階級の低さから言って着られはしません。

dagged のもとの語は dagge で，オックスフォード版中世英語辞典は OF dague を語源としている。AF では dage である。その意味は「短剣」である。従って dagged は「短剣形のデザインの」となる。I. Pars. 418 に so muche pounsoninge of chisels to maken holes, so much *dagginge* of sheres ;という個処があり，「のみで穴を開け，鋏でぎざぎざを入れる」が参考になる。dagge は短剣型のデザインなのである。実際に木の葉型，鋸歯状，花びら型があるらしい。研究社大英和辞典の「cf. OF dague "dagger"」は妥当である。欲を言えば AF dage が欲しい。

（続く）

文　　献

1）*n* は noun を示す。以下品詞の英語名の略語がここに来る。

2）OF は Old French を示す。以下語源となる言語の英語の略語がここに来る。

3）I. Skeat ed. *The Works of Geoffrey Chaucer* の volume IV(TEXT)の目次に表示された物語の集団分類記号で，アルファベット順になっている。

4）Pars. Skeat の TEXT 目次に出る The Persones Tale の略語。

5）865-70. The Persones Tale の行（文）番号。何行目（何番目の文）であるかを示す。

6）Greimas : *Ancien Français* 1968.

7）Rothwell : *Anglo-Norman Dictionary* 1977-（未完，Fascicle 6まで既刊）。

8）AF Anglo-French のこと。OF との関係で Anglo-Norman に代えて使用する。

9）Lewis : A *Latin Dictionary*.

10）The Oxford English Dictionary.

11）Skeat は colers と読むが採用しない。文法がおかしくなる。Skeat 自身も *The Works of Geoffrey Chaucer* の volume V (Notes)で Some MSS. read *Colerd of*, which I now believe to be right. と述べている。

12）Skeat ed. *The Works* volume V (Notes)による。

13）cel eyde est *collect* quant graunté a roi par la communaltê du roylme（この支援金は王国庶民により国王に与えられるという場合に集められる）*YBB* Ed II vi 77.

14）Skeat ed. *The Works* volume V (Notes)による。

15）14)に同じ。

16）Dauzat éd. : *dictionnaire étymologique*.

17）Benson general ed. : *The Riverside Chaucer*.

18）14)に同じ。

19）Guillaume de Lorris et Jean de Meun : *Le Roman de la Rose* publié par Félix Lecoy. Tome III. 17203-5.

20）14)に同じ。

21）14)に同じ。

22）14)に同じ。

23）例文：…par gentz nent corumpables（本当にまじめな人々によって）*St Sard* 47.

24）Mersand は OED に従い，of uncertain origin としながら，なおロマンス語起源と扱っている。保谷の検討結果では AF 起源が適当である。

Abstract

A Study of Latin and French Loan Words Which Chaucer First Used in *The Canterbury Tales* except the General Prolgue (3)

Katsuzo HOYA

This is the third installment of a study of Latin and French loan words which Chaucer first used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue. This time I treat the next 36 words, No. 73 closure to No. 108 DAGGED. The date of the first borrowing is ascertained to be about 1386. The present study compares the date with that of the first recorded appearance in French, and elucidates the rapidity, and the cultural background, of borrowing. Special emphasis is placed on distinguishing the two sorts of French, Continental French and Anglo-French (or Anglo-Norman), thus making clear the nuance of borrowing. (To be continued)

Department of Foreign Languages (English)